

にじっ子

🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅 🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅🎄🎅

ダメダメ言わないですむ声かけ

「着替えをしよう」と言ってもがんとして着替えようとしないう。 「おふろに入ろう」と言うと、「まだ遊びたい」「お腹すいた」「眠い」などと答えて入ろうとしないう。 あげくにはかんしゃくをおこしてしまう…。 なぜいうことをきかないのかしら？ 言っていることが通じないの？ コミュニケーションがとれないのはどうして？ と思うことはありませんか。 このもやもやイライラした気持ちが子どもにも伝わって、「きい——」と、叫ばれたことはありませんか？

大人が言っていることを理解しやすくなるように、**注意をしっかりとひいて、目に見える手がかりを使い、言葉を選んで「声かけ」**してみてもうどうでしょう。

＜注意をひく方法：例えば…＞

- ・周りの不要な音（テレビなど）を消して呼ぶ
- ・子どもの目の前に行って呼ぶ
- ・子どもの肩をたたいて呼ぶ
- ・手をたたいて呼ぶ
- ・長く呼ぶ「あ———ゆむくん」など

＜目に見える手がかり＞ ・身振りで示す

- ・具体物や写真などを見せる



+「靴はいてね」



+ゴミ箱に捨てて

＜言葉を選んで＞

・否定文ではなくポジティブな表現で

「走りまわらない」⇒「椅子に座って」
 「大声を出さない」⇒「小さい声でしゃべる」
 「飲み物をこぼさない」⇒「ストローで飲もうね」

・具体的に

「きちんと片付けて」⇒「おもちゃを箱に入れて」
 「あっちに置いて」⇒「テーブルの上に置いて」

・短く

「あーもう早くはいてよ。急ぐんだから」
 ⇒「靴はいてね」

N
H
K
す
く
す
く
子
育
て
よ
り

「子どもの視点にたつ」とは
 「子どもは大人とは感じ方が違う」ことを理解すること。大人にとって何でもないことが、子どもにとってはすごく高い・感覚が苦手・こわい・難しそうと感じ、いろいろな理由があってできないことがある。このような理由を言葉でうまく説明することは難しいので、親はコミュニケーションがとれないと思いがちに。子どもの様子をよく観察すると、気持ちが理解できることも多くなる。

ほっとさんの教え（臼杵市家庭教育10か条）の中から

⑧ **ほめると 子どもは自信をもって行動するよ**

「なぜ、できないのかな」と感じたときは、**子どもの目線でとらえなおしてみると**いいかもしれません。**子どもの発達は一入ひと違ひます。「小さな進歩」に目を向けて「いいところ探し」をたくさんして、成長を支えてあげましょう。**

文：佐藤裕子





にじっ子ひろば

2019・12・12

「おもちゃのチャチャチャ」

☆ **おもちゃのチャチャチャ おもちゃのチャチャチャ**
チャチャチャ おもちゃのチャチャチャ

1空にきらきらお星さま みんなすやすや 眠るころ

おもちゃは箱を飛び出して踊るおもちゃのチャチャチャ☆

2なまみの兵隊トテテタ ラッパならしてこんばんは

フランス人形すてきでしょ 花のドレスでチャチャチャ☆

3今日はおもちゃのお祭りだ みんな楽しく歌いましょ

子羊メエメエ子猫はニャー 子ぶたフースカチャチャチャ☆

4空にさよならお星様 窓にお日様こんにちば

おもちゃは帰るおもちゃ箱 そして眠るよチャチャチャ☆

◎次回は「クリスマス会」

12月26日(木) 受付9:30~ 開始10:00

場所: 中央公民館和室・大ホール

持ち物: 出席ノート・水筒・着替えなど

時間	
9:30	受付 自由遊び
10:00	ごあいさつ トトロの体操「さんぽ」 エプロンシアター 読み聞かせボランティア釘宮さん 「やさいのパーティー」
10:30	手作り楽器を作ろう 歌「おもちゃのチャチャチャ」 歌に合わせて音を鳴らそう
10:50	池田さんの話 ・子どもの成長について
11:20	体操「手のひらを太陽に」
11:30	さようなら



おすすめ絵本

『たいちゃんのたいこ』

寮 美千子：作 大島妙子：絵 鈴木出版

太鼓が大好きなたいちゃん。朝から太鼓をたたきます。「たん たん た た たん」。するととりさんが「ぴる ぴる ぴる るん」とお空に飛んで…。たいちゃんが太鼓をたたくと、そこにいる皆がいろいろな音で答えてくれます。リズムカルな言葉と可愛らしくて優しい絵がとてもマッチしていて、子どもさんと一緒に言葉に出して楽しんでほしい絵本です♪



『読めなくても、書けなくても、勉強したい』

『ディスレクシアのオレなりの読み書き』 井上智・賞子：著 ぶどう社

「ディスレクシア」は、知的能力の低さや勉強不足が原因ではなく、脳機能の発達に問題があるとされる、文字の読み書きに限定した困難さをもつ疾患です。発達障がいや学習障がいに位置づけられており、発達性読み書き障がいと呼ばれることもあります。この本は**43歳で自分が「ディスレクシア」であると知った**著者が教員である妻の助けを借りながら書いたものです。子どもの頃からのつらい体験の数々は読むこちらの心も苦しくなります。そして「勉強したい」という著者の意欲には本当に頭が下がる思いです。著者のような人がもしかしたら自分の近くにいるかもしれないと、身近なこととして捉え、その特性を特別なことだと区別しないことが大切だと思います。誰だって、苦手なことはあるのですから…。



一冊めはこども図書館、二冊めは白桦図書館所蔵です。予約もできます。市営駐車場の無料券(二時間分)もらえます。

